

(様式-1)

## 栃木県公共事業事前評価・自己評価書 [県土整備部 街路事業]

1/2

事業概要調書									
1. 事業名	街路づくり事業								
2. 事業箇所	日光地区都市計画道路3・4・20号 <small>ひらちようあずまちょうせん</small> 平町東町線外2路線 <small>にっこうししもいまいち</small> 日光市下今市工区								
3. 事業の概要	(1) 事業目的 <p>本都市計画道路は、JR日光線今市駅を起点とし国道119号を経て東武下今市駅を結ぶ都市の骨格を形成する幹線道路であり、日光の中心市街地のまちづくりを進めるうえでも不可欠な道路である。</p> <p>事業区間は、平町東町線420m、下今市駅前線75m及び国道119号の交差点影響範囲125mを合わせた620mの区間であり、主要地方道 今市氏家線及び一般県道下今市停車場線に認定し県が管理している。沿道は、古くから商店や飲食店などが建ち並ぶ商業地域であり、鉄道利用者や買物客のほか、今市高等学校・今市工業高校への通学など、自動車や自転車歩行者の多い道路である。</p> <p>下今市工区は、以下を事業目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通円滑化による公共交通へのアクセス強化</li> <li>・自転車・歩行者の交通安全確保</li> <li>・都市防災機能の強化及び沿道環境の改善</li> <li>・日光市中心市街地の活性化</li> </ul>								
	(2) 計画概要 <p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画は、日光市中心市街地活性化基本計画に基づき、現在の都市計画道路ネットワークを見直し、安全で安心な都市環境や良好な街並み景観を創出するため、延長620mを現道拡幅で整備する。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>全体延長：620m</td> <td>現況交通量：4,675台/日（平成22年）</td> </tr> <tr> <td>道路幅員：20.0m</td> <td>計画交通量：5,700台/日（平成42年）</td> </tr> <tr> <td>車線数：2車線</td> <td>設計速度：50km/h</td> </tr> <tr> <td>道路規格：第4種第2級</td> <td>その他構造物等：電線共同溝</td> </tr> </table>	全体延長：620m	現況交通量：4,675台/日（平成22年）	道路幅員：20.0m	計画交通量：5,700台/日（平成42年）	車線数：2車線	設計速度：50km/h	道路規格：第4種第2級	その他構造物等：電線共同溝
	全体延長：620m	現況交通量：4,675台/日（平成22年）							
	道路幅員：20.0m	計画交通量：5,700台/日（平成42年）							
	車線数：2車線	設計速度：50km/h							
道路規格：第4種第2級	その他構造物等：電線共同溝								
(3) 事業予定期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度～平成28年度 平成27年度～平成31年度</td> <td>用地調査、用地取得 工事実施</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成25年度～平成28年度 平成27年度～平成31年度	用地調査、用地取得 工事実施				
期 間	事 業 内 容								
平成25年度～平成28年度 平成27年度～平成31年度	用地調査、用地取得 工事実施								
(4) 事業費及び内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費</th> <th>約25億円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費内訳</td> <td>           工事費：約9.0億円            用地補償費：約15.0億円            測量設計費：約1.0億円         </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国費：55%、県費：45%</td> </tr> </tbody> </table>	事業費	約25億円	事業費内訳	工事費：約9.0億円 用地補償費：約15.0億円 測量設計費：約1.0億円	財源内訳	国費：55%、県費：45%		
事業費	約25億円								
事業費内訳	工事費：約9.0億円 用地補償費：約15.0億円 測量設計費：約1.0億円								
財源内訳	国費：55%、県費：45%								
(5) 事業発案の経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光市中心市街地活性化基本計画に基づく都市再生整備計画事業のH23事業化</li> <li>・駅間及びその周辺まちづくり協議会など地元からの早期整備要望</li> <li>・平成23年度及び平成24年度に日光市から県議会に対し早期整備要望</li> <li>・日光市中心市街地内の日光地区都市計画道路の未整備路線</li> </ul>								
4. 県計画への位置付け	県土整備部の道路・交通分野の将来構想である「人にやさしい県土60分構想」の基本施策において、「地域交流を促進する交通拠点の利便性向上」及び「自転車利用環境の向上」として位置付けている。								
5. 他計画・他事業との関連	<p>日光市中心市街地活性化基本計画区域内（平成23年3月25日大臣認定）</p> <p>◎都市再生整備計画事業（日光市施行）70.1ha H23年度～H27年度</p> <p>主な基幹事業</p> <table border="1"> <tr> <td>東武下今市駅前広場整備(3,000㎡)</td> <td>H23年度～H27年度予定</td> </tr> <tr> <td>まちなか広場整備(760㎡)</td> <td>H24年度～H26年度予定</td> </tr> <tr> <td>防災広場整備(650㎡)</td> <td>H24年度～H27年度予定</td> </tr> <tr> <td>小倉町周辺整備(ミュージアム・ホール・観光情報館)</td> <td>H23年度～H26年度予定</td> </tr> </table> <p>◎第6期無電柱化推進計画</p>	東武下今市駅前広場整備(3,000㎡)	H23年度～H27年度予定	まちなか広場整備(760㎡)	H24年度～H26年度予定	防災広場整備(650㎡)	H24年度～H27年度予定	小倉町周辺整備(ミュージアム・ホール・観光情報館)	H23年度～H26年度予定
東武下今市駅前広場整備(3,000㎡)	H23年度～H27年度予定								
まちなか広場整備(760㎡)	H24年度～H26年度予定								
防災広場整備(650㎡)	H24年度～H27年度予定								
小倉町周辺整備(ミュージアム・ホール・観光情報館)	H23年度～H26年度予定								
所轄部課名	県土整備部 都市整備課								

別添図面・・・事業位置図

事業評価調書	
事業名	街路づくり事業
1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現道の幅員は約6.5mで両側に側溝や電柱があり、センターラインも歩道も無い狭隘な道路となっている。また、今市第三小学校の通学路に指定されており、特に通勤通学時には、利用者が非常に多いことから、自転車・歩行者と自動車が錯綜し、大変危険な状況となっている。</li> <li>平成22年交通量 自動車:4,675台/日 歩行者:1,010人/14h 自転車:412台/14h</li> <li>・ 事業区間は、駅前商店街を形成する商業地域に位置し、JR今市駅と東武下今市駅を結ぶ駅間連絡道路であるが、沿道の商店街は空き店舗が目立っており、賑わいの創出が求められている。</li> <li>→ 駅へのアクセス機能を強化するため、道路拡幅が必要である。</li> <li>→ 道路利用者の安全安心を確保するため、自転車歩行者道が必要である。</li> <li>→ 良好な都市景観や都市防災機能を強化するため、無電柱化が必要である。</li> </ul>
2. 事業の適時性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業区間以南は、駅間JR今市土地区画整理事業(H5～H21 約14.2ha)により整備しており、一般県道今市停車場線296mを平成22年4月に供用している。</li> <li>・ 日光市中心市街地活性化基本計画に基づく都市再生整備計画事業と連携した一体的な整備により、安全で安心な自転車・歩行者ネットワークが構築できる。</li> <li>・ 平成23年度から事業化した都市再生整備計画事業と用地取得時期を合わせることで、重複する地権者の用地取得を円滑に進めることができる。</li> <li>・ 本路線に係る都市計画については、平成25年3月に現状の課題に対応した都市計画に変更することで地域の合意を得ており、関係機関（交通管理者、電線管理者、鉄道管理者等）との協議も終了している。</li> </ul>
3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業区間は、昭和30年3月に当初の都市計画が決定され、現在、日光市で進めている中心市街地活性化事業の中軸となる路線であることから、事業適地であると判断した。</li> </ul>
4. 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業区間は、主要地方道今市氏家線、一般県道下今市停車場線及び一般国道119号に認定されており、その道路管理者である県が事業を実施する。</li> </ul>
5. 事業により予想される効果及び影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比 (B/C) 1.29</li> <li>総便益 (B) 約 26.8 億円 (供用後 50 年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮、走行費用減少、交通事故減少効果などの合計です。)</li> <li>総費用 (C) 約 20.8 億円 (事業費及び維持管理費(供用後 50 年間)の合計を価格基準年の価値に換算した金額です。)</li> </ul> </li> <li>○ 公共交通へのアクセス強化・交通安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>道路拡幅により円滑な交通が確保され、駅へのアクセス機能が強化するとともに、混雑する通勤通学時の自転車・歩行者の安心安全が図られる。</li> </ul> </li> <li>○ 都市防災機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>道路拡幅や無電柱化により、建物等の倒壊による道路の寸断や火災延焼拡大の防止が図られるとともに、災害発生時の避難路が確保される。</li> </ul> </li> <li>○ 沿道環境の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>無電柱化等により良好な街並み景観を創出するとともに、排水性舗装により、騒音の低減が図られる。</li> </ul> </li> <li>○ 日光市中心市街地の活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>日光市中心市街地活性化事業の小倉町周辺整備を核として、JR今市駅と東武下今市駅間が連携強化することにより、地域交流拠点として観光、商業、住環境の機能強化が図られる。</li> </ul> </li> </ul>
6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共工事コスト縮減行動計画2010（平成22年7月 栃木県県土整備部）に基づき、設計・施工各段階において、コスト縮減を検討する。</li> </ul>



# 日光地区都市計画道路 3・4・20号 平町東町線外2路線 日光市下今市 位置図

